

(3) 担当部署

計画の 担当部署	名 称	東京女子医科大学東医療センター
	電 話 番 号 等	03-3810-1111内4491
公表の 担当部署	名 称	東京女子医科大学東医療センター
	電 話 番 号 等	03-3810-1111内4491

(4) 地球温暖化対策計画書の公表方法

公表方法	ホームページで公表	アドレス：	
	窓 口 で 閲 覧	閲覧場所：	東京女子医科大学東医療センター
		所在地：	東京都荒川区西尾久2-1-10
		閲覧可能時間	平日（土曜日を除く） 9:00～17:00
	冊 子	冊子名：	
		入手方法：	
そ の 他	アドレス：		

(5) 指定年度等

指定地球温暖化対策事業所	2009	年度	事業所の使用開始年月日	1934	年	7	月	1	日
特定地球温暖化対策事業所	2009	年度							

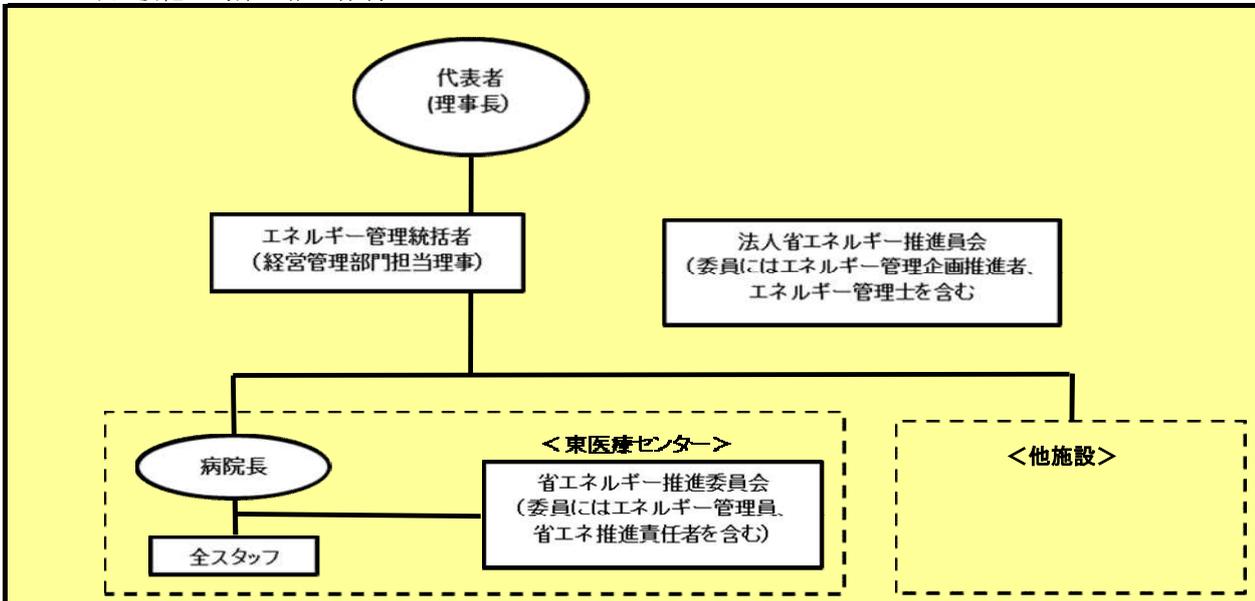
2 地球温暖化の対策の推進に関する基本方針

1. 改修工事の際にはより省エネ効果の高い設備の導入を行う。
2. 診療部門、研究部門の室内設定温度などの微調整が難しい部分を抱えているが、事務室・医局・会議室などにおける室温・照明等の運用管理を徹底していく予定である。また引き続き、地球温暖化対策の重要性について、職員全体に認識を深めるため、省エネに関する積極的な啓発普及活動を行う予定である。

再エネの導入・利用に関する取組みについて：

特記事項無し

3 地球温暖化の対策の推進体制



4 温室効果ガス排出量の削減目標（自動車に係るものを除く。）

(1) 現在の削減計画期間の削減目標

計画期間	2020 年度から 2024 年度まで			
削減目標	特定温室効果ガス	今後も継続して省エネ対策を実施し、削減義務の25%の省エネを達成できるよう努める。		
	特定温室効果ガス以外の温室効果ガス	当事業所から排出される特定温室効果ガス以外のガスは、水道の使用量に伴うCO2が該当する。		
削減義務の概要	基準排出量	4,546 t（二酸化炭素換算）/年	削減義務率の区分	I-1
	排出上限量（削減義務期間合計）	17,050 t（二酸化炭素換算）	平均削減義務率	25%

(2) 次の削減計画期間以降の削減目標

計画期間	2025 年度から 2029 年度まで	
削減目標	特定温室効果ガス	建物増改築の計画があり省エネ機器を設置し、さらなる特定温室効果ガスの総量削減に努める。
	特定温室効果ガス以外の温室効果ガス	節水を呼びかけ、水道の使用量の削減を目指す。

5 温室効果ガス排出量（自動車に係るものを除く。）

(1) 温室効果ガス排出量の推移

単位：t（二酸化炭素換算）

		2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
特定温室効果ガス (エネルギー起源CO ₂)		3,827				
その他ガス	非エネルギー起源 二酸化炭素 (CO ₂)					
	メタン (CH ₄)					
	一酸化二窒素 (N ₂ O)					
	ハイドロフルオロカーボン (HFC)					
	パーフルオロカーボン (PFC)					
	六ふっ化いおう (SF ₆)					
	三ふっ化窒素 (NF ₃)					
上水・下水		39				
合計		3,866				

(2) 建物の延べ面積当たりの特定温室効果ガス年度排出量の状況

単位：kg（二酸化炭素換算）/㎡・年

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
延べ面積当たり 特定温室効果ガス 年度排出量	130.8				

6 総量削減義務に係る状況（特定地球温暖化対策事業所に該当する場合のみ記載）

(1) 基準排出量の算定方法

<input checked="" type="radio"/> 過去の実績排出量の平均値	基準年度：（ 2004年度、2005年度、2006年度 ）
<input type="radio"/> 排出標準原単位を用いる方法	
<input type="radio"/> その他	算定方法：（ ）

(2) 基準排出量の変更

	前削減計画期間	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
変更年度						

(3) 削減義務率の区分

削減義務率の区分	I - 1
----------	-------

(4) 削減義務期間

2020 年度から 2024 年度まで

(5) 優良特定地球温暖化対策事業所の認定

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
特に優れた事業所への認定					
極めて優れた事業所への認定					

(6) 年度ごとの状況

単位：t（二酸化炭素換算）

		2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度	削減義務期間合計
決定及び予定の量	基準排出量 (A)	4,546	4,546	4,546	4,546	4,546	22,730
	削減義務率 (B)	25.00%	25.00%	25.00%	25.00%	25.00%	
	排出上限量 (C = Σ A - D)						17,050
	削減義務量 (D = Σ (A × B))						5,680
実績	特定温室効果ガス排出量 (E)	3,827					3,827
	排出削減量 (F = A - E)	719					719

(7) 前年度と比較したときの特定温室効果ガスの排出量に係る増減要因の分析

増減要因	<input type="checkbox"/> 削減対策	<input type="checkbox"/> 床面積の増減	<input type="checkbox"/> 用途変更
	<input type="checkbox"/> 設備の増減	<input checked="" type="checkbox"/> その他	
具体的な増減要因	<p>前年から8ton増えた。前年に比べ11, 12, 1月の電力量が増えた。原因としては、看護専門学校の冷温水管のセクション管漏れの為、冷温水ポンプを24時間運転を行った。また、発熱外来プレハブ設置により、東病棟の電力も増加した。</p> <p>さらに、2020年度はコロナ禍による感染予防対策で、換気が行われたことにより、冷房負荷が増え、空調にかかる電気・都市ガスの使用料が増えた。</p>		

7 温室効果ガス排出量の削減等の措置の計画及び実施状況（自動車に係るものを除く。）

対策 No	対策の区分		対策の名称	実施時期	備考
	区分 番号	区分名称			
			【特定温室効果ガス排出量の削減の計画及び実施の状況】		
1	120100	12_燃焼設備の管理	高効率型熱源機器等の更新	2007年度より実施	
2	150200	15_照明設備の運用管理	高効率ランプへの更新	2007年度より実施	
3	130100	13_空気調和の管理	省エネファンベルトへの更新	2007年度より実施	
4	140200	14_給排水設備の管理	擬音装置の設置	2007年度より実施	
5	120500	12_熱搬送設備の運転管理	冷温水ポンプのインバータ化	2008年度より実施	
6	120200	12_冷凍機の効率管理	ターボ冷凍機から空冷チラーへの更新	2011年度より実施	
7	150200	15_照明設備の運用管理	誘導灯を高輝度型に更新	2010年度より実施	
8	130300	13_換気設備の運転管理	天井扇をタイマー制御に変更	2012年度より実施	
9	150200	15_照明設備の運用管理	照明設備のLED化	2014年度より実施	
10	150200	15_照明設備の運用管理	照明設備のLED化	2015年度より実施	
11					
12					
13					
14					
15					
16					

7 温室効果ガス排出量の削減等の措置の計画及び実施状況（自動車に係るものを除く。）

対策 No	対策の区分		対策の名称	実施時期	備考
	区分 番号	区分名称			
17					
18					
19					
20					
		(再生可能エネルギーの設備導入及び利用の状況)			
71					
72					
73					
		【その他ガス排出量の削減の計画及び実施の状況（その他ガス削減量を特定温室効果ガスの削減義務に充当する場合のみ記載）】			
81					
82					
83					
		【排出量取引の計画及び実施の状況】			
91	180100	18_排出量取引			
92					
93					

8 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価（自動車に係るものを除く。）

1. 2020年度も引き続き下記の削減対策を実施した。
 - ・給排気ファンの運転時間短縮。
 - ・一般照明の時間消灯。
 - ・個別空調温度設定の緩和。
 - ・部屋を使用する最後の人へ、消灯・エアコンOFF・コンセントを抜くことへの啓発を促した。
2. 今後も、適切な運用方法の検討を随時おこない、継続的な省エネを実施していく。
2021年も引き続き省エネ推進委員会の活性化を図る。
3. 2020年度から省エネパトロールを夏・冬のONシーズン2回実施している。
病院長・事務長も参加し、その結果を院内ニュースに掲載し、啓発に努めている。

再エネの導入・利用に関する取組みについて：